

大きさ13センチのガ「シンジュサン」

## 西目屋で県内初確認

### 弘大、資料館で標本展示



県内で初めて確認されたシンジュサン(同センター提供)

弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センターは10日、県内で初めて、大型のガ「シンジュサン」を西目屋村で確認したと発表しました。羽を広げた大きさは13センチにもなり、県内最大級の昆虫とみられる。全国で見つかっているが本県ではこれまで記録が残っていません。標本は現在、弘

前大資料館で開催されている企画展「蝶と蛾の多様性を見よ!」で展示されている。

同センターは、2018年度から白神山地に生息するガ類の調査を行っており、これまで県内初の数十種類を含む900種類を超えるガを確認している。

シンジュサンはヤママユガ科で羽は茶色、三日月状の模様があるのが特徴で、沖縄県から北海道まで全国で見つかっているが、北東北では、ゼロだった本県を

含め報告が少ないという。今回の個体は雄で7月24日早朝、西目屋村内で見つかった。同センター長の中村剛之教授は「これほど大きいものが見つからないでいたということは、まだまだ他にも分かっていないことがたくさんあるということ」と話す。

9月24日まで開いている弘大資料館企画展ではこのほか、世界のチョウや、白神山地に生息するガの標本4000点近くを見ることが出来る。(西尾瑛)

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問い合わせ先] 弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。